

建設トップランナーフォーラム in 富山

地域と歩む建設企業の存在意義を確認

建設トップランナーフォーラム・日本青年会議所建設部会・越の国富山ブロック建設クラブが主催する「建設トップランナーフォーラム in 富山」が8日、高岡市のウイング・ウイング高岡で開催された。『持続可能な社会基盤づくりと地方再生』をテーマに、地域再生をめぐる講演や

事例発表、パネルディスカッションが行われ、地域とともに歩む中で建設業の存在意義をより高め、いくつ必要性を確認し合った。

会場には県内外の建設会社、行政、まちづくり関係者など約300人が来場。主催者を代表して日本青年会議所建設部会の奥田孝行部会長、来賓を代表して石井隆一富山県知事(殖生雅章土木部長代読)があいさつした後、建設トップランナーフォーラム代表幹事の和田章東京工業大学教授が主旨説明した。和田教授は、過度の一極集中の危険性を自然災害に対する

抵抗力から指摘。地方活性化の必要性を強調した。特別講演では、JT Bの清水慎一常務が『これからの地域振興とまちづくり』と題し講話した。地域振興とまちづくりを絡め、個人や団体が幅広く連携することで、新しいコンソーシアムを構築。地域における観光戦略に生かすべきと提唱した。事例発表では、北海道庁の田邊弘一商工金融課主査が『北海道の取組事例』、石川県小松市の(株)ビルカン、(株)コムレイドの佐々木紀常務が『「竣工式」をきっかけにイベント分野に進出、既存顧客のもつ幅広い要望に

える』のテーマで事例を述べた。

富山県からは、富山市の泉建設(株)の泉社長が『自然石透水型グレーチング「しんとうくん」開発ストーリー』、高岡市のNPO法人「Nプロジェクトひと・みち・まち」の山下久美子事務局長が『持続可能な地域づくり〜違う視点をもった、違う立場の人とのコラボレーション〜』と題し、意欲的な事例を披露した。

事例発表、パネルディスカッションが行われ、地域とともに歩む中で建設業の存在意義をより高め、いくつ必要性を確認し合った。

会場には県内外の建設会社、行政、まちづくり関係者など約300人が来場。主催者を代表して日本青年会議所建設部会の奥田孝行部会長、来賓を代表して石井隆一富山県知事(殖生雅章土木部長代読)があいさつした後、建設トップランナーフォーラム代表幹事の和田章東京工業大学教授が主旨説明した。和田教授は、過度の一極集中の危険性を自然災害に対する

抵抗力から指摘。地方活性化の必要性を強調した。特別講演では、JT Bの清水慎一常務が『これからの地域振興とまちづくり』と題し講話した。地域振興とまちづくりを絡め、個人や団体が幅広く連携することで、新しいコンソーシアムを構築。地域における観光戦略に生かすべきと提唱した。事例発表では、北海道庁の田邊弘一商工金融課主査が『北海道の取組事例』、石川県小松市の(株)ビルカン、(株)コムレイドの佐々木紀常務が『「竣工式」をきっかけにイベント分野に進出、既存顧客のもつ幅広い要望に

える』のテーマで事例を述べた。

富山県からは、富山市の泉建設(株)の泉社長が『自然石透水型グレーチング「しんとうくん」開発ストーリー』、高岡市のNPO法人「Nプロジェクトひと・みち・まち」の山下久美子事務局長が『持続可能な地域づくり〜違う視点をもった、違う立場の人とのコラボレーション〜』と題し、意欲的な事例を披露した。



挨拶する奥田日本青年会議所建設部会部会長

事例発表では、北海道庁の田邊弘一商工金融課主査が『北海道の取組事例』、石川県小松市の(株)ビルカン、(株)コムレイドの佐々木紀常務が『「竣工式」をきっかけにイベント分野に進出、既存顧客のもつ幅広い要望に

える』のテーマで事例を述べた。

富山県からは、富山市の泉建設(株)の泉社長が『自然石透水型グレーチング「しんとうくん」開発ストーリー』、高岡市のNPO法人「Nプロジェクトひと・みち・まち」の山下久美子事務局長が『持続可能な地域づくり〜違う視点をもった、違う立場の人とのコラボレーション〜』と題し、意欲的な事例を披露した。

パネルディスカッションでは、慶応義塾大学理工学部の米田雅子教授がコーディネーターを務め、上西氏、清水氏のほか橘慶一郎高岡市長と北海道オホーツク(株)世紀を考える会の菅野伸一会長の4人が地方再生に向け、地域ブランドをどう創出するのか議論した。



パネルディスカッションの様子

地元で活躍する魅力的な人材と連携し、個性的な地域の再生に向け力を合わせていく重要性を指摘。その中の建設企業の役割は大きいなどの意見が出た。

平成20年2月に組織化した建設トップランナーフォーラムは、建設業のおかれた厳しい状況と戦いながら、夢を持って新事業へとまい進する建設経営者とその支援者の集まりで、建設会社が地域ビジネスを興しながら、同時に社会基盤を担うことが地域再生につながることを信じて、年に1度の全体会、5つの分科会(アグリビジネス、環境ビジネス、地域づくり、森林再生、新しい発想ビジネス)による研修活動、メール通信やホームページを利用した情報交換などを行っている。